海・川・湖その世界とのふれあい

マリンスノー
MARINE SNOW

No. 16
1995. 3. 15

●目次

就任にあたって……1
いるか館オープン！……2
トピックス……4
雑　感……4
催し物……5
浅虫の海の生物たち(16)……6
浅虫水族館日誌抄録……6
動物紳士録……7

青森県営浅虫水族館

就任にあたって

青森県営浅虫水族館　館長　佐　藤　立　治

平成６年７月１日、稲葉忠前館長の後を引き継ぎ、７代目の館長に就任いたしましたが、先ずはじめに、平成７年１月17日に発生した兵庫県南部地震により被災された皆さまに衷心からお見舞申し上げます。

私は、前年度まで青森県水産試験場に勤務しておりましたが、水試の仕事は水産に関する調査、研究、開発を専らとするものでした。

これに対し、新たな任務は通年観光、広域観光の拠点並びに県民の教養、文化施設として、東北地方でも、屈指の規模をほこる県営浅虫水族館の運営と云うことで、まことに、身の引きしまる思いであります。

微力ながら懸命の努力をいたしたいと思いますので、関係機関の皆々様並びに全国の水族館関係者の皆様、どうかよろしくお願い申し上げます。

それでは、さっそく、新施設「いるか館」のご紹介とさせていただきます。

当水族館は、本県の地理的環境が三面海に囲まれた環境にあることから、出来るだけ豊富に県内の水族を展示するとともに、併せて世界中の特徴ある魚族等を飼育し、基本テーマは開館以来、「自然とのふれあい」として参りました。

このテーマを更に一歩具体的に進めるものとして、平成６年４月25日、開館10周年記念事業として、イルカ（バンドウイルカ）の餌付けやタッチ等の体験が出来、更に水中遊泳等を楽しく観察出来る「いるか館」をオープンさせました。

この施設は、高齢イルカの休養の場としての性格も具備しておりますが、今後の水族館のあり方としても、新たな価値を創出できたものと考えております。

人と人との情報伝達さえ、現代社会に於ては崩れかけようとしておりますとき、多様な生物の生命に直接ふれあうことが、我々の日々の営みのエネルギーの根源となり、真のリフレッシュを与えてくれます。

しかし、自然界にその場を求めようとしても容易なものではなく、水族館等は、今やその課題をみたしうる数少ない場であります。「いるか館」は更に一歩、人と動物との垣根をとりはらったものといえましょう。

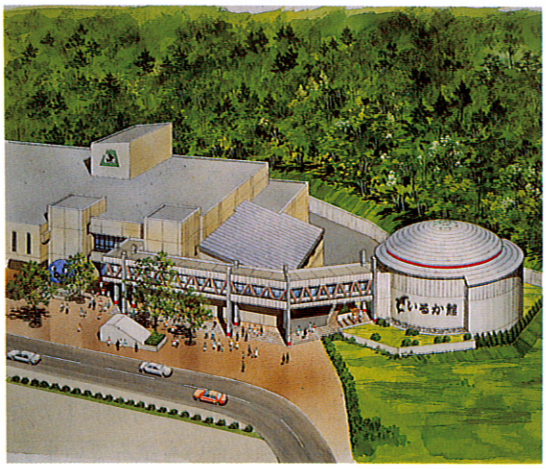
今後とも当水族館では、職員一同力をあわせ、ハード、ソフト面においても一層の充実を図り、皆さまに愛される施設となるよう努力いたすつもりであります。

関係各位の日頃の御指導に深く感謝申し上げるとともに、今後とも、特段の御協力をお願いする次第であります。

平成７年３月15日

いるか館オープン！

平成６年４月25日、『いるか館』がオープンしました。内部は２階建になっており、２階では上部から、１階では側面から遊泳するイルカを観覧できるようになっています。



●建築規模／延べ床面積　760㎡
いるか館…鉄筋コンクリート一部鉄骨造
円形ドーム型２階建
１階271㎡（水槽110㎡含む）
２階313㎡（スロープ130㎡含む）
連絡通路…鉄骨造２階建176㎡（延長約50ｍ）

１　バンドウイルカの飼育状況

当館では現在13頭のバンドウイルカを飼育しています。飼育環境は大きく分けるとショープール・トレーニングプール・いるか館の３つのブロックからなっています。

ショープールでは５頭により２チームを編成しショーを、トレーニングプールでは２組の母仔と保母役の雌イルカの計５頭を、そしているか館では平成６年４月に搬入した新個体２頭と最年長イルカの計３頭を飼育中です。

いるか館が完成する前に比べると、訓練・休養・出産育児などいろいろな面で余裕のある飼育が可能となり、イルカたちにとっても良い環境ができたと思います。そして、泳ぐイルカたちをいつも観覧できるということも展示上大きな変化です。

平成６年末現在

飼育プール	飼育個体名	性別	推定年齢(才)	飼育年数(年)
ショープール	イアン	雄	16	11
(ホールディングプールを含む)	ファニー	〃	15	11
	ジム	〃	10	8
	セーラ	雌	6	4
水量 937.5 t	ミッキー	〃	6	4
トレーニングプール	テラ	雌	16	11
	ローラ	〃	10	8
	イージー	〃	10	8
	T－2	〃	529日	529日
水量　437 t	L－2	〃	494日	494日
いるか館	マリン	雌	16	11
	No. 18	雄	4	0.7
水量　310 t	No. 19	雌	3	0.7

＊T－2，L－2は繁殖個体

２　建設まで

開館からしばらくの間は、文字どおりショープールでショーを、トレーニングプールでは若齢イルカの調教・訓練を行うという飼育状況でした。５年を経過した頃から、性成熟年齢に達する個体が多くなり、繁殖行動が目立つようになってきました。そして、平成元年７月には初めての出産。

母イルカは、血中プロゲステロン濃度の上昇などにより妊娠が推測されたため、同年３月からショーを休みトレーニングプールで出産に備え、７月無事出産することができました。残念ながらこの個体は 400日余りで病死したのですが、その後９例の出産があり現在はそのうち２頭が生存しています。

出産を成功させるためには専用のプールを確保し、同居個体にも留意する必要があります。しかし、トレーニングプールで出産・育児ということになると、新イルカの搬入・訓練が制限され次の世代を担うショーイルカの育成が思うようにならないという問題が生じます。

当館におけるイルカ飼育の将来を考えると、長期飼育に伴なう個体の高齢化、ショーイルカの世代交代も大きな課題です。ショーをリタイアしたイルカの飼育場所がありません。

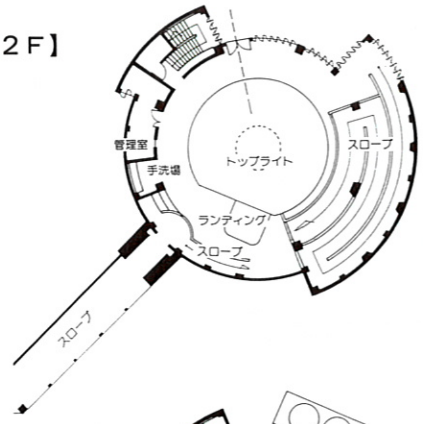
今後のイルカ飼育・展示について議論がくり返されました。

そして検討されたのがイルカの遊泳も観覧できるプールです。

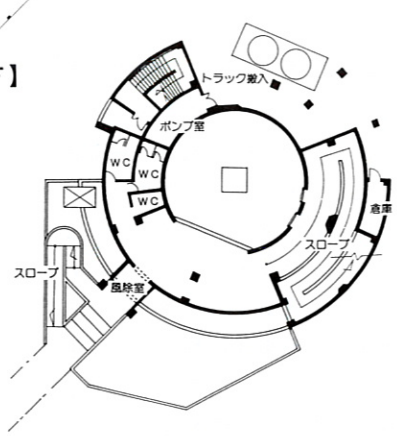
3　完成

関係者の努力が実り、『いるか館』は完成しました。

【2F】



【1F】



■水槽規模/形状円形・直径12ｍ・最大水深３ｍ・水量310ｔ
■濾過ポンプ/二相ステンレス製・3.0㎥/min×15KW１台
■濾過器/内部ゴムライニング∅2.8ｍ×H1.5ｍ１台
■熱交換器/プレート式・伝熱面積2.7㎡　　１台
■アクリルガラス/W6.7ｍ×H1.9ｍ厚さ105㎜

２Ｆ　下降スロープ側から見たプール
観覧通路とプールは高さ1.1ｍの強化ガラスによって仕切られている。

１Ｆ出口から見たいるか館
約50ｍの連絡通路によって本館と接続される。

観覧通路は、イルカ・アシカプール棟２階の休憩所フロアーから約50ｍの連絡橋によって『いるか館』２階に接続されています。そして、プールを半周しスロープにより１階へと続き、ここでは幅6.7ｍ、高さ1.9ｍのアクリルを透して遊泳するイルカを観覧できるようになっています。また、給餌の体験など、これまでショーの時間にしかなかったイルカとの新しい触れ合いも試みています。側面から見ることができる施設がなかったため、わかりにくかったイルカ同志のコミュニケーションや身体の外部変化の観察など、飼育面でも有効に利用できるプールができあがりました。

4　イルカとのふれあい、そして……

イルカのジャンプにより、お客様に水がかかるなどトラブルもありましたが、イルカたちをより身近に感じていただけるようになったと思います。時には何時間も泳ぐイルカたちを見ている方もいらっしゃいます。やはり、当館においてもイルカは人気者です。

日本での本格的な鯨類飼育が始まって約40年、諸先輩の努力・研究により飼育技術は向上し、今繁殖にも力が注がれ始めています。『いるか館』を泳ぐ母仔イルカをご覧いただける日も近いかもしれません。

これからもイルカたちの魅力をより多く知っていただけるよう努めたいと考えています。

最後に、『いるか館』建設に御尽力いただいた多くの関係者の方々に厚く御礼申し上げたいと存じます。　　（田　村）

さよならゴマチャン

当館で飼育している４頭のゴマフアザラシは、幼獣で海岸に標着しているところを保護しました。

幼獣の頃は、鳴いて係員に餌をねだっていましたが、成長するにつれて、先を争いバケツの中に顔を突っ込み餌を食べたり、又相手の餌を横取りしたりするほど元気になりました。

その後、体も大きくなりプールを泳ぐのを見ていると、とても狭く感じられるため、他の水族館や動物園の大きなプールで、のびのびと泳いでもらいたいと思い、２頭のアザラシを飼育してくれる園館を探した所、日立市かみね動物園で飼育してくれると連絡がありました。そこで、平成６年５月31日に搬出しました。

搬出したアザラシは、仲間と元気に泳いでいると連絡があり一安心しました。残ったアザラシは、寂しそうにしていましたが、今では、広く感じられるプールを元気に泳いでいます。（成田）

ショーデビューできた!!

平成６年４月、イルカ飼育係員として採用されたのがイルカとの最初の出会いでした。イルカの事を何も知らなかった私に、トレーナーの先輩達は時には厳しく時には優しく教えてくれました。

そして、ショーデビューに向けての訓練が始まりイルカの顔、性格、頭の良さなどがわかるようになりました。思うようにイルカが動いてくれず、悔しい思いをした時が度々ありましたが、先輩達に、いろいろアドバイスをしてもらい、８ヶ月間くじけることなく12月18日デビューの日を迎えました。以前、客席にいた私が、今幕がゆっくり開いて、ステージの中央に立ち客席を見渡しています。この８ヶ月間を振り返るといろんなことがありましたが、今まで以上に勉強して自分が自信を持てるようなトレーナーを目指しお客様に喜んでいただけるようにがんばりたいと思います。（蒔苗）

雑　　感

人間は何事によらず、失なわれつつある時、又は完全に失なわれてしまった時に、初めてその尊さを感じて落胆し、嘆き悲しむものであります。

今、地球上では多くの生物が姿を消しつつあると云われています。それは森林伐採、海岸線の埋め立てによる護岸工事、大気汚染等の環境汚染により、その影響を直接受ける生物を消滅に追いやっています。幼い頃浜に出ると磯の香りというか何とも言えない新鮮な香りが漂ってきて、子供心にも清々しい気持ちになったのを覚えています。ところが最近の浜には全くそのような香りは感じられなくなりました。浜はコンクリートで固められた護岸になり、小川はU字型のブロックを流れる急流にかわり、そこには、藻場はなくなり、産卵場は消滅し、小魚等の安住出来るところは姿を消しつつあるように思われます。

これらは、自然災害から身を守るための人間の利己心からと云ってしまえばいたしかたのないようですが、もはや過去には戻らず、現状維持することが精一杯と云えるでしょう。

私達、水族館に勤める者として、自然保護に対する謙虚な気持ちを忘れてはならず、一般観客を啓蒙し一人でも多くの方々に種の保存の尊さを身につけて頂ければ幸いと思います。（佐藤　敦）

催し物

青森冬まつり

第16回青森冬まつりが平成６年２月10日～13日の４日間、青森市合浦公園をメイン会場として開催されました。当館も毎年浅虫会場として冬まつりに参加していますが、今回は初めて犬ぞりレースを水族館の駐車場で行いました。これは動物愛好家の人たちでつくる団体「北の動物家族」の主催で、県内はもとより県外からも合せて86組が参加し、熱戦を繰り広げました。県内では２～３年前から犬ぞりをスポーツとして楽しむ愛好家が増えはじめ、徐々に人気が高まってきており、決まったコースを走るタイムレースとしては県内初の大会となりました。参加したチームの中にはコースを大きくそれたり、犬が思うように走らなかったり、乗り手に置いてけぼりを食わせる一幕もあり会場を大いに沸かせました。

この大会は大変人気があり集客効果も高いので、冬の風物誌として定着させていきたいと思います。（渡辺）

「－ゆかいな仲間－フグとハギ展」開催

フグとカワハギの仲間達には、その顔や形がとてもユーモラスなものがたくさんいます。そこでそれらを集めて、４月27日から７月３日までの間春の特別展として「ゆかいな仲間　フグとハギ展」を開催しました。

フグ毒で知られているように、フグにはテトラドトキシンという毒を持っているものが多いのですが、その体型はまるっこくて、怒るとふくらんでまんまるになります。特に、ハリセンボンの仲間はとげを逆立てて丸くなるので、お客様の人気の的でした。他にも、キンチャク袋のような形のキンチャクフグ類、四角い箱型をして体表からパフトキシンという毒を出すハコフグ類、おちょぼ口のカワハギの仲間、そして、色どりが美しいモンガラカワハギの仲間と、それぞれに独特の特徴があり、お客様にも充分に楽しんでいただけたことと思います。（永田）

グローブ　フィッシュ
（オーストラリアのハリセンボンの一種）

「カリブの海から」開催

西大西洋の中南米、西インド諸島に囲まれたカリブ海には、太平洋で見られる魚たちとはまた違った色彩や形をした魚たちやさまざまな生物が生息しています。このカリブ海に棲む生物たちを集めて、夏休みの特別展を７月23日から８月31日まで開催しました。

「カリブの女王」と称せられるクイーンエンゼルを初めとする色鮮やかなキンチャクダイ類やチョウチョウウオ類、情熱的な赤を基調にしたキューバンホッグなどのベラ類、形の変わったジャックナイフフィッシュやまるでカエルのようなウォーキングバットフィッシュ、オレンジ色の触手がひときわ目を引くバハマハネガイ。さわると折れてしまいそうな細い脚をしたアロークラブなど約30種200点あまりを展示しました。

猛暑の夏と相まって、常夏のカリブ海を少しでもイメージしていただけたでしょうか？

（杉本）

～浅虫の海の生物たち～

(16) オホーツクホンヤドカリ

Pagurus Ochotensis

オホーツクホンヤドカリは、エビやカニが含まれている甲殻類の仲間で、ホンヤドカリ科に属する北方系のヤドカリです。日本では、新潟県佐渡島以北の日本海側と、千葉県犬吠埼以北の太平洋側、津軽海峡、そして、オホーツク海を含む北海道全域の各沿岸に分布しています。ヤドカリの仲間のうちでも大型の種類で、甲長約45㎜に達し、生息層も水深５ｍ以深とやや深めのところになります。また、特徴として、右のハサミが左のハサミより２倍以上も大きいので注意して見て下さい。

前記のとおり体が大きいので、利用する巻貝の貝ガラは、タマガイ科のツメタガイやエゾバイ科のエゾボラ、バイなどの大型のものが多いようです。餌はゴカイやエビなどの底生生物や、底に沈んだ死魚などで、時にはヒトデなどを食べることもあるみたいです。

当館では現在、他の種類のヤドカリと一緒にタッチコーナーに入っています。ヤドカリは、貝ガラが狭くなると引っ越しをしますので、飼育する際には少し大き目の貝ガラを入れておく必要があります。餌はオキアミやアサリなどを与えていますが、餌を入れるとすぐに寄って来て、ハサミを器用に使って食べます。タッチコーナーでは、お客様が直接手にとって御覧いただけます。触れられる時に、ヤドカリは最初驚いて、すぐにカラの中に体を引っ込めますが、水の中で手のひらに乗せてじっとしていると、そのうちにゆっくりと体を出してきますので、じっくりと観察してもらいたいものです。　　(永田)

浅虫水族館日誌抄録

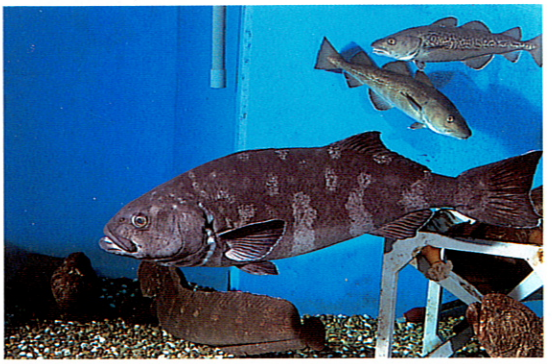
1．4　ＮＨＫニュース「正月ショー」取材
　11　鰺ヶ沢（竹太商店）よりチョウザメ搬入
　12　フンボルトペンギン１羽孵化
　14　ＲＡＢふるさと探訪「イルカ」取材
　16　ＲＡＢ、毎日新聞「チョウザメ」取材
　30　和歌山県立自然博物館よりウツボ搬入
2．11～13　青森冬まつり協賛
　28　碧南水族館よりシラコダイ他搬入
3．1　北極ダラ産卵
　3　ＡＴＶおしゃべりハウス「イルカ」取材
　17　熱帯大水槽リニューアルオープン
　28　北海道臼尻よりサケビクニン他搬入
4．14　和歌山県太地町よりバンドウイルカ２頭搬入
　18　ＮＨＫニュース「イルカ」取材
　20　ＡＢＡニュース「イルカ」取材
　21　ＲＡＢラジオ青森ＴＯＤＡＹ取材
　25　「いるか館」オープン
　29　春の特別展「フグとハギ展」開催
5．17　大畑漁協よりオオカミウオ他搬入
　31　日立市かみね動物園へゴマフアザラシ２頭搬出
6．9　ＮＨＫくらしのジャーナル「イルカ」取材
　17　下関水族館よりカブトガニ搬入
7．4　室蘭水族館よりサクラマス他搬入
　7　男鹿水族館よりウスメバル搬入
　14　ジャパン・タイムス「イルカ」取材
　15　交通新聞社「イルカ」取材
7．23　夏の特別展「カリブの海から」開催
8．3　東日本放送「イーハトーブ」取材
　10　室蘭水族館よりウサギアイナメ搬入
　15　北大水産学部より北極ダラ他搬入
　18　市内後潟よりマツダイ搬入
9．14　鴨川シーワールドよりカゴカキダイ他搬入
　16　市内後潟よりギンカガミ搬入
10．15　図画展開催
　20　平成６年度第１回関東、東北ブロック園・館長会議開催
　25　小泊漁協よりスギ搬入
　29・30　水族館まつり
　29　十和田湖水族館よりペリヤジ搬入
11．1　深浦町大戸瀬漁協よりスギ搬入
　20　室蘭水族館よりマダラ搬入
12．3　よみうり新聞「ペンギン」取材

お知らせ

青森県営浅虫水族館開館10周年記念事業として、イルカの休養・保養のほか、入館者が餌付けやタッチ体験ができ水中遊泳も観覧できる開放型施設として『いるか館』が昨年4月25日オープンしました。

餌付けやタッチ体験については参加人数・時間など、制限がありますので詳しくは水族館までお問い合わせください。

浅虫水族館 動物紳士録



アブラボウズ

Erilepis Zonifer

北太平洋の水深300～600mの岩礁域に生息しています。写真の個体は、昭和59年12月29日に津軽海峡において、下北郡大間町在住の古川氏が一本釣で釣り上げたものです。当館にやって来てから10年経ちましたが、病気らしい病気にもならず今だに食欲おう盛です。体長も1m20cm程になり、寒帯コーナーの主のような存在感で、お客様方を圧倒しています。

ザリガニ

Cambaroides Japonicus

日本固有種で、北海道・青森県・秋田県・岩手県だけに分布します。雑食性で、河川上流の冷たい清澄な流れに生息します。青森県では体長5cm程までの個体が多く、北海道産に比べ小型です。津軽地方では「ザルガニ」と呼び、かつては肺病やウルシかぶれの民間療法薬に利用されていた為その生息地は大事に守られていました。肺吸虫・肝吸虫の中間宿主となることが知られています。

ゴブリンフィッシュ

Glyptauchen Panduratus

南オーストラリア沿岸の岩場に生息しています。英名で「ゴブリン(小悪魔)」という名前がつけられているとおり、奇怪な頭と首のような部分を持っていて、まるでニワトリなどの鳥類の子供のような感じです。夜行性のため日中は物陰に隠れたり、水底にジッとしていますが、ピョンピョンと飛び跳ねるようにして移動します。外敵から身を守るために背ビレのトゲには毒腺があります。

表紙説明　ウォーキング・バット

夏休みの特別展で展示された、カリブ海からの珍客。アンコウ目アカグツ科に属し、体長6cmほどの大きさです。胸ビレはカエルのうしろ足のように体の中央横に開き、腹ビレを腕のように伸ばして体を支えています。

マリンスノー　No.16
1995年3月発行
㈶青森県企業公社
青森県営浅虫水族館
〒039－34　青森市浅虫字馬場山1の25
TEL 0177－52－3377